



Report  
4

# 農地海岸保全施設災害復旧事業 小谷鳥地区第1号工事

大震災からの復旧、その教訓から学んだ施工



- 所在地 岩手県下閉伊郡山田町  
船越地内
- 発注者 岩手県
- 設計 岩手県土地改良事業団体連合会
- 工事概要 防潮堤 L=366m  
地盤改良(造成長)L=44.959m<sup>2</sup>
- 完成年月 2017年3月



## 大津波により甚大な被害を受けた防潮堤の復旧

本工事の施工場所は、岩手県山田町船越半島内の太平洋外海に面した場所にあり、2011年に発生した東日本大震災による大津波による影響で、既設防潮堤は跡形もなく崩壊する等、甚大な被害を受けた地域です。今回の工事は、大震災を受け崩壊した重力式コンクリート防潮堤(天端高:TP+8.0m)から、盛土被覆コンクリート式防潮堤(天端高:TP+12.8m)に復旧する工事でした。



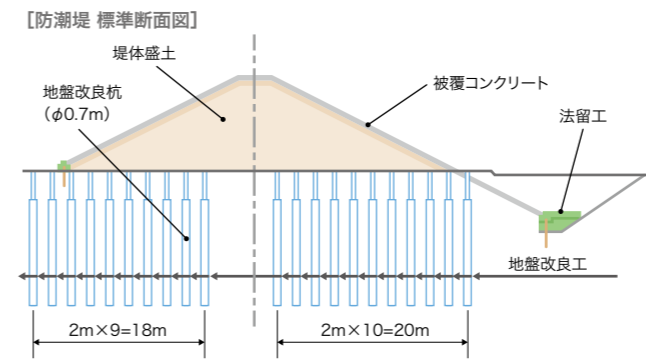
## 復興再生砕石を使用した液状化対策

東日本大震災時は、大半が重力式の防潮堤であったため、殆どが液状化で転倒してしまい、津波に対する防護機能を発揮できませんでした。このことを踏まえ、今回は復興再生砕石を使用したグラベルコンパクションパイル工法による液状化対策を施しています。

## 震災復興現場から学んだ 建設業が果たすべき役割



東北支店 土木部  
作業所長  
**松田 昌彦**



施工場所では、GL-2.0m~-20.0mの範囲に、一部の層でN値30以上の固い層が存在するため、オーガーによる先行削孔を実施してから地盤改良を施工しています。地盤改良の施工内容は、直径0.7mの地盤改良杭、改良長3.6m~23.0m(平均長17.0m)、総改良本数2,966本です。



## コンクリート二次製品を採用して工期短縮

現場地域は、生コンの供給がひっ迫していて、各現場、100m<sup>3</sup>/日の制限があるとともに深刻な型枠大工不足で、1年以上の工期延伸が懸念されていました。そこで早い段階から打設数量が最も多い防潮堤法面被覆コンクリート(約8,400m<sup>3</sup>)を、現場打ちからコンクリート二次製品への変更を発注者との協議を繰り返し認めていただいたことで、工期内に完了することができました。また、防潮堤法留部・根固めブロック・防潮堤法面階段部にもコンクリート二次製品を採用し、工期短縮を図りました。

## Episode

### 子どもたちに「地元の海」を

工事も終わりに差し掛かった2016年9月、地元の大浦小学校から現場見学会の開催をしたいとの要望が寄せられました。東日本大震災以降、大浦小学校では生徒たちにできるだけ海岸には近づかないよう指導していたため、大震災から5年半が経過した2016年9月の時点で、地元の海を見たことがない生徒が9割もいたそうです。その事実を驚いた先生方が完成間近の防潮堤を見て、是非とも子どもたちに地元の美しい海を見せたいという強い思いから、現場見学会が実現しました。改めて震災の影響の大きさを痛感させられたと同時に、地域を守る、子どもたちを守るという使命が我々の仕事にはあることを感じ、身の引き締まる思いがしました。

